

# 長蓮寺報

NO.8 (平成15. 12. 1)

## 心の広さ

昨年暮れ、突然 大学時代の後輩から「今富山へ来ているので、寄っても良いか？」との電話がありました。1時間後、「ピンポン！」玄関のチャイムが鳴ったので、玄関に出てみると、大きな荷物を担ぎ、ボロボロの行者笠をかぶった浮浪者風の人が立っています。よくよく見るとその彼でした。

彼は私を見るなり、「いま、新潟から歩いてきました。(^^) 広島あたりまで歩こうと思ったんですが、富山にさしかかると飯田さんの顔が目には浮かんできたんで、チョットお目にかかりたいと思って……」と微笑んでいました。

その夜、酒を酌み交わしながら、何故、托鉢の旅をやると思った動機など色々聞くことが出来、翌日の早朝 彼は元気良く西に向けて旅立ってゆきました。

それから、一年が過ぎ、2. 3通の手紙が来た物のどうしているか心配しておりましたが、

先日、またまた彼から連絡があり、その小一時間後、彼はやってきました。結局、広島まで行くと言っていた彼ですが、体調もすごぶる良かったので、沖縄まで船で渡り5ヶ月で西日本を一周し、一旦は新潟の自坊へ帰ったものの、5月より今度は5ヶ月掛けて、北海道と東北(東日本)の托鉢行を行い、前回は日時の制約があつて慌ただしく歩いたが、今回は時間にとらわれずゆっくり歩き、出来れば船で沖縄から台湾に渡り台湾を一周してきたいとのことでした。

彼の身なりはさすがにボロボロでしたが以外と元気の様で一安心いたしました。その夜、またまた、色々旅の話聞くことが出来ました。

その中で

「食事とか宿はどうしていたの？」との質問に彼は

「普通の一般の民家などで頼み込んで、食べ物を頂戴し、寝るのもお寺や大きい屋敷の方をお願いして、家のひさしの所やお堂の中で泊めていただいたりしている。」とのことでした。また、1割ぐらいのようですが、事情を話すと、やさしく迎えてくださって、暖房のある客間に泊めてもらえたようです。

最近の日本はなんだか物騒になってしまつて、見ず知らずの人を泊めることなどしないと思つていましたが、中には奇特なかもいらっしゃるようで、まだまだ日本も捨てたもんじゃ無いなあ。と感心した今日この頃です。

その彼は翌朝5時半頃、元気良く西へ旅立っていきました。

皆様にとって平成十六年が幸多き年になりますように。

合掌

### 平成16年 年忌表

1 周忌	平成15年	1 7 回忌	昭和63年	3 7 回忌	昭和43年
3 回忌	平成14年	2 3 回忌	昭和57年	4 3 回忌	昭和37年
7 回忌	平成10年	2 7 回忌	昭和53年	4 7 回忌	昭和33年
1 3 回忌	平成 4年	2 3 回忌	昭和47年	5 0 回忌	昭和30年

# 長蓮寺の基礎知識Q & A

## Q：三十番神様について教えてください

三十番神様とは？ 旧暦の1ヶ月30日の間、毎日交替の当番で法華經の信仰者を守護する、日本国の所々にお祀りする三十の神様のことです。



1 1カ月30日の間、その順番は、  
1 日を熱田（あつた）大明神とし、  
以下順に  
2 日諏訪、3 日広田、4 日気比（けひ）、  
5 日気多（けた）、6 日鹿島（かしま）、  
7 日北野、8 日江文（えぶみ）、  
9 日貴布弥（きふね）、10 日伊勢（天照大神）、  
11 日山城（八幡大菩薩）、  
12 日賀茂、13 日松尾、14 日大原野、  
15 日春日、16 日平野、17 日大比叡

（おおびえ）18 日小比叡（おびえ）、19 日聖真子（しょうしんじ）、20 日客人（まろうど）、21 日八王子、22 日稲荷、23 日住吉、24 日祇園（ぎおん）、25 日赤山（せきさん）、26 日建部（たけべ）、27 日三上、28 日兵主（ひょうず）、29 日苗鹿（なえか）、そして30 日を吉備（きび）大明神とするのが一般的です。（他に諸説あり）

ご先祖の戒名を記する過去帳にも、日付ごとに神名が記されているものがありますから、気のつかれた方もあるでしょう。

## 【三十番神様の起源】

三十番神様は、平安時代に起源をもちます。第三代目の天台宗の座主 慈覚大師円仁は、比叡山において法華經の如法書写（写經）を行い、首楞嚴院（しゅりょうごんいん）と言うお堂を建立しました。この時、教典ならびにお堂の守護のために神々をお祀りしたのです。

はじめは十二支を日々にあてて十二神でしたが、延久5年（1073）に良正阿闍梨が18人の神々を選び、三十番神となりました。



法華用の過去帳には必ずお題目の下に三十番神様の名が書かれています

## 【日蓮聖人と三十番神様】

日蓮聖人は、日本国の神々について天照大神、八幡代菩薩を代表とみられました。この2神は、お釈迦様が霊鷲山で法華経をお説きになったとき聴衆としてその場に連なるとされており、曼荼羅御本尊にも勧請されています。

日蓮様は、『立正安国論』に

「世みな正に背き人ことごとく悪に帰す。故に善神は国を捨てて相去り、聖人所を辞して還らず」

（日本の神々も、法華経の法味によってはじめて力を発揮することができ、法華を修行する者を助けてくださる） と、おっしゃられています。

それ故、我が法華宗の各寺院では三十番神様をお祀りいたしております。ただ、当長蓮寺には残念ながら、平成10年まで三十番神様がいらっしゃいませんでした。（富山の空襲等で消失した可能性もあり）

この事を当檀家の仏師であられる神尾様にご相談申し上げたところ、快く三十番神様をお作りいただき、寄進していただきました。それ以来、当山でも勧請いたしております。



## 有頂天（うちょうてん）

高校や大学に合格できたり、仕事の功績が認められ昇進したりすると皆さん必ず鼻高々になりますね。宝くじがあたったり、思っていた事が万事うまくいき、そのことで鼻高々になることを「有頂天」といいます。

確かにこんなことがあると嬉しくて嬉しくて仕方なくなるのですが、この様なとき私達は得てしてあまりに嬉しすぎて、周りが見えなくなったり、自分の事だけを考えるようになってしまいがちです。

そもそも「有頂天」とは色究竟天（しきくきょうてん・色界の第四天）とか、非想非非想天（ひそうひひそうてん・無色界の第四天）とか言われ、最高の幸せを表す言葉・境地です。

しかし、お釈迦様は「こんな時が一番、迷いを生じやすいから皆、気を付けるように」とおっしゃられ「有頂天」と言う言葉をお使いになられて、私達を戒めていらっしゃるのです。



## ◎ 平成16年檀信徒懇談会

毎年、秋に当北陸教区では各寺院持ち回りで檀信徒懇談会が開催されています。

御檀家さんの中では、何回か参加された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

来年は当 長蓮寺で開催される予定ですので、

是非 この機会にご参加下さるよう御願い申し上げます。

檀信徒の方の代表による講演や講師の方のお話、午後には檀信徒の方々の質問を各御寺院がお答えになる質疑応答があります。皆さん 仏事に関して疑問に感じていることなどあれば、是非 ご質問下さい。

また、題目講のような大々的な準備は必要ありませんが。机を出したり、準備が少なからず必要ですので、お手数ですかお手伝いの程 宜しく御願いいたします。

詳しくは年明け後 皆様に御案内いたします。

## ◎ 家族が増えました

私事で恐縮ですが、先の7月17日に次女がうまれました。有紀（ゆき）と申します。今後とも宜しく御願い致します。

## ◎ 平成十四年年頭祈禱会・七日会・写経会のお知らせ

### ○ 1月11日（日）午前11時より

7日会の年頭祈願会を開きます。

ご希望の方は別紙の申込用紙にご記入の上お申し込み下さい。

### ○ 毎月7日午後2時よりお経の練習会をひらいております。

参加費無料になっておりますので気軽にお越し下さい。

### ○ 次回の写経会は3月7日（日）午後1時を予定いたしております。

発行／飯田宏行 発行所／〒939-8083 富山市西中野本町12-8 長蓮寺 076-424-5408